

淡路新地域ビジョンの構成（イメージ案）

◆ 策定の趣旨

- ・ 現行ビジョンの策定から20年、改訂から10年が経過
- ・ 淡路地域を取り巻く環境変化、社会潮流を踏まえ、30年後の淡路地域の将来像を県民と共に考え、共有できる中長期的なビジョンを策定

◆ これまでの経緯

現行ビジョン策定からの20年間の取組内容

- ・ あわじ環境未来島構想の地域活性化総合特区への指定
- ・ ロングライド150の開催
- ・ 淡路花博2010「花みどりフェア」の開催
- ・ 福良港津波防災ステーションの供用開始
- ・ 「淡路ふるさと学習読本」、「あわじ環境未来島読本」の発行 等

◆ 時代の潮流、背景（課題）

- ・ 人口減少、超高齢化社会 ・ コミュニティの維持困難 ・ 気候変動と自然災害の脅威
- ・ 地域経済の衰退 ・ 産業、伝統文化の後継者不足 ・ テクノロジーの進化
- ・ 新型コロナウイルス感染症を契機とした社会の変化 等

◆ 目指す社会像

『 』

◆ 目 標

例1『自然と共に生きる社会』

淡路島の豊かな自然を次世代に引き継ぐ。豊かな自然環境や生物多様性などの淡路島らしい景観が、人々の暮らしに豊かさをもたらす社会をめざす。

（30年後の姿）

- 森、里、海の連携した生態系の保全と再生により豊かな生物多様性が復活し、島民や来訪者に癒しと豊かさをもたらしている。
- 食もエネルギーも地元産。地域内で循環し、災害で孤立しても大丈夫な島に。

例2『人と人がつながる社会』

地域の人々が世代を超えてつながり、お互いを尊重し助け合えるコミュニティが確立する社会をめざす。

（30年後の姿）

- ゆるやか就農ブームで後継者問題を克服。淡路島の農産物や水産物は、「淡路ブランド」として地域産業の柱となっている。
- 地域や人がゆるやかにつながり地域内で孤独を感じない社会。
- 地域通貨が普及し、地域内でお金が循環している。

例3『一人ひとりが輝く社会』

地域やコミュニティの中で自分の役割を見つけ、誰もが自分らしい生き方を選べる社会をめざす。

（30年後の姿）

- 職住接近とリモートワークの活用でワークライフバランスの先端地域となる。
- 身体の維持だけでなく、心身も含めた幸せづくりを目的としたウェルネスイベントが人気を集める「健幸」の島に。
- 地産地消の食生活により健康な高齢者が増加し、いつまでも活躍できる社会に。

◆ 目標達成に向けた一人ひとりの役割・行動

目標達成に向けて住民一人ひとりが日頃から意識して行動することが大切。

【住民の役割、行動】

『自然と共に生きる社会』

- ・ 自然への畏敬の念を忘れることなく地域資源を生かす ・ 自然の豊かさを発信する
- ・ 山、里、川、海の自然環境の価値をよく知り、価値を損なわない使い方をする
- ・ エネルギーを使わない暮らし、自然の豊かさが持続する暮らしを心がける
- ・ 地域の自然生物多様性を使った持続的なブランディングをする
- ・ 自然を生かした防災、減災に取り組む ・ 自然エネルギーを自給自足する

『人と人がつながる社会』

- ・ 世代を超えて集える場づくり ・ 町内会単位で多世代交流をする ・ 近所づきあいの強化
- ・ シェアハウスのような暮らし方 ・ 田んぼに行くときに近所の家を回る
- ・ 大人と子供の接点をつくる ・ まちぐるみで子供を遊ばせる ・ 働く姿を見せる
- ・ 家業の継承 ・ 地産地消を心がける ・ 地場産業の物や技術を暮らしに取り入れる
- ・ 食の一押し産品を発信する ・ 緩やかなつながりをもつ ・ 移住者との橋渡しになる

『一人ひとりが輝く社会』

- ・ 学ぶことの価値を示す ・ 他者を尊重する ・ 地域の中で高齢者を支える人材をつくる
- ・ 伝統芸能や歴史を継承する ・ 寺子屋的な場で人材資源を発掘する
- ・ 学校行事へ積極的に参加する（スキルの伝達） ・ コミュニティで自分の役割を見つける
- ・ 多様な働き方、働き場所をつくる

【地域団体の役割】

専門知識やノウハウを活用し、様々な住民を巻き込んだ活動の展開や住民同士をつなぐネットワークの構築など、主体的に地域づくりの仕掛けを実施する。

【行政の役割】

地域づくりや人材育成の基盤整備を行うとともに、市民活動の支援、情報の提供、住民の行政への参加機会の提供など、住民主導の地域づくりのサポート役として側面的な支援を行う。

淡路地域ビジョン 全体概要

第Ⅰ部 ビジョン策定から改訂までのあゆみ

1 従前のビジョンの概要

- (目標)
人と自然の豊かな調和をめざす環境立島「公園島淡路」
- (実践目標及び行動指針)
①花いっぱい美しい島、②文化が広がる島、③人をはぐくむ島、④魅力ある産業を興す島
⑤安全で安心な島、⑥心あふれる交流の島
- 2 ビジョン委員の活動
3 地域づくりの取組
4 数字で見る変化
(経済) 総生産額の減少、一人当たり市町民所得の減少、(社会) 急速な人口減少・高齢化、
(環境) 製造業不振を主因とした温室効果ガスの削減、環境意識の高まり

第Ⅱ部 新たな“国生み”をめざして(改訂ビジョン)

■ 1 淡路島を取り巻く環境の変化

- (1) 世界の現状と課題
①地球環境の危機、②資源枯渇の可能性、③経済破綻の可能性、④社会崩壊の可能性
(危機をもたらしたもの)
①大量の化石燃料消費、②経済的利益偏重の市場原理主義
- (2) 日本の現状と課題
(経済) 成長の停滞、地方経済の衰退、(社会) 人口減少・少子高齢化、第1次産業の担い手不足、地域社会の歴史、文化、伝統の喪失 (環境) 地球温暖化、生物多様性の喪失、自然災害

■ 2 淡路島の直面する課題

- (経済) ①地域経済の縮小、②若者の流出、③地域産業の課題(瓦産業の不振、農漁業の生産量減少と後継者不足、宿泊観光客の伸び悩み、健康福祉や環境関連の需給のミスマッチ等)
(社会) ①都市機能の低下、②空間管理の荒廃、③コミュニティの維持困難、④学校の小規模化、⑤少子高齢化(一人暮らし高齢者の増加、家庭の育児力の低下、労働者不足、伝統芸能の後継者不足等)、⑥交通基盤(高額な高速道路料金、島内路線バス・海上交通の縮小)
(環境) ①地球温暖化、②生態系の危機、③資源枯渇、④淡路らしい景観の喪失、⑤自然災害

■ 3 淡路島が持つ可能性

— 稽古照今(古を稽えて、今を照らす) —

- (1) 淡路島が担うべき役割
古事記序文にある「稽古照今」は、古き時代を顧みて、現代の足りないところを補い学ぶこと
①他地域にない「国のはじまりは淡路島」という古き歴史に立ち寄り、国の基本的な方向を見直す
②“地域の物語”を掘り起こし、振り返り、そこに住む人々の行動に今後の規範を探る
- (2) 淡路島の歴史から見えてくる未来
「淡路の海上交通と道路」海上交通を見直し、淡路島を関西の交通の要とする
「御食国“淡路島”」淡路島を食の拠点とし、第1次産業を軸として社会全体を見直す
「淡路島のエネルギー」山林資源活用の歴史を生かしたバイオマスエネルギーを復権させる
「淡路島の技術」先進的技術導入の歴史を生かし、地域適正技術を生かした産業を創出する
「水不足と水資源管理」乏しい水資源を分配管理した歴史を生かし「島内の水循環」をつくる
「山岳信仰からみえる自然との共生」自然の恵みの有限性を踏まえ「自然環境の容量」を考える
「鎮守の森と文化・伝統芸能」「人格形成」や「集落の活力」を生み出す集落統合の場を作る
「淡路島の人口の推移」自然の恵みを引き出す淡路島の風土と文化が脚光を浴びる

■ 4 淡路地域ビジョンの理念

<3つの理念>

1 命をつなぐ“持続可能な島”

命には、時代を超え、世代を超える“縦のつながり”と、あらゆる生き物との“横のつながり”の2つがあり、こうしたつながりを大切に持続可能な社会を実現する。

2 「経済」「社会」「環境」の調和のとれた新たな“幸せ社会”

経済、社会、環境の調和を大切に価値観を共有し、子どもたちがやりがいのある仕事に希望を見だし、幸せを実感できる社会を実現する。

3 環境立島“公園島淡路”の理念の継承と発展

人と自然の新たな関係を作り出す精神(文化)の確立と科学技術の開発と導入による地域社会の再創造を目指す「環境立島“公園島淡路”」の理念の継承と発展をめざす。

■ 5-1 淡路地域ビジョンの目標

環境立島あわじ

～人と自然の豊かな関係をきざく“公園島”へ～

■ 5-2 4つの実践目標

実践目標1 誰もが役割を持ち、地域の宝が生きる島づくり

地域における「参画と協働」を進め、地域の担い手、ビジネスリーダー、オピニオンリーダーなど、淡路島の未来を託せる人材を育てる。
それぞれが持つ「知恵」、「技術」、「個性」、「郷土への誇り」を活かし、すべての人々に役割や居場所があり、生涯現役で暮らせる島を目指す。また、家庭や地域で、一人ひとりが大切にされ、互いに助け合い、支え合って生きていることが実感でき、「自助」、「共助」、「公助」のバランスのとれた島を目指す。

実践目標2 個性と活力にあふれ、新たな価値を生み出す島づくり

淡路島の歴史や文化に育まれた地域資源を生かし、地域内外との連携をとりながら、新たな価値観と豊かな発想で付加価値の高い産業を生み出す。
若者が就労できる機会を増やし、自らが自分に合う働き方(生き方)を見だし、適正規模で一人ひとりが生きていける小さな生業を興すという主体的な行動を支援する。
地産地消など、できるだけ地域内で消費し、淡路島から外部に過大に流出している富を内部に循環する仕組みづくりを進め、地域経済の自立を目指す。

実践目標3 自然とのつき合い方を再考し、その恵みに支えられた島づくり

自然への畏敬の念や命のつながりを自覚するとともに、過去の災害の教訓を深く記憶にとどめ、これからの生き方、暮らし方に生かしていく。
自然に恵まれた淡路島の価値を生かした地域づくりを進め、グリーン経済を振興するとともに、環境を生業とする「グリーンカラー」と呼ばれる人材を生み出し、育てる。
自らの「命」を支える豊かな自然の価値を認め、次世代へ伝えるために、多様な生態系を社会的、経済的、さらにはスピリチュアルな視点から評価した上で、地域適正技術の活用により、人と自然が協働することで、新たな共生空間の形成をめざす。

実践目標4 経済、社会、環境が調和し、命をつなぐ島づくり

経済、社会、環境の調和について関心を持ち、真の幸せ(豊かさ)が実感できる、淡路島らしい暮らしを実現するための「仕組み」をつくる。
ビジョンの実践過程とその成果を、“新たな国生み神話”として島内外や世界に広く発信し、外部からの意見などを取り入れ、次のステップに生かす。

■ 6 ビジョン実現のためのポイント

- ① ビジョンの普及と共感
- ② あらゆる主体の参画
- ③ 行動や事業に応じた適切な協働と役割分担
- ④ 実現を支援する「仕組み」の構築
- ⑤ 的確なフォローアップ(評価、見直し等)

■ 7 目標の指標化による検証

- 「幸せ指標」の設定と活用
① 経済、社会、環境の豊かさを総合して「幸せ」を定義
② 各分野の総合指標として「幸せ指標」の設定を目指す
③ 3つの側面ごとに地域社会の状況を把握し、ビジョンをフォローアップ

目標を達成するための行動指針

実践目標1：誰もが役割を持ち、地域の宝が生きる島づくり

(教育・文化)	・精神的にも体力的にもたくましく、個性輝き、命のつながりを大切に子どもたちを育てます。 ・地域の人、モノ、自然、歴史を学習し、それらを活用します。 ・伝統的な文化を継承、発展させます。 ・芸術を振興し、新たな文化を創造します。 ・生涯学習・生涯スポーツを推進します。 ・災害の記憶や記録を継承し、災害に強い地域社会を構築します。
(健康・福祉)	・年代層に応じた健康を増進する取組を進めます。 ・子育てを地域で支援できる仕組みなど、安心して出産し、子育てのできる環境を整えます。 ・一人暮らしの高齢者や過疎地域でも、安心して暮らせる医療・福祉システムを構築します。 ・高齢者や障害者などの事情に対応し、男女の別なく、誰もが個人として尊重され、生きがいを持てる柔軟な就労機会や社会参加の機会を増やします。
(まちづくり・地域づくり)	・花とみどりにあふれ、淡路島らしい優れた景観やアメニティの豊かな地域空間を創造します。 ・全島一斉清掃や漂着ゴミの清掃作業を推進し、ゴミのない美しいまちを作ります。 ・誰もが安全で安心して暮らせるまちづくりを進めます。 ・交通弱者に優しく、環境負荷の少ない地域交通をつくります。 ・孤立せず、繋がりのある生活を可能にするコミュニティや住環境をつくります。 ・ボランティア活動、地域づくり活動を促進し、社会的企業を育成します。 ・異文化交流を積極的に行い、異文化理解を促進します。

実践目標2：個性と活力にあふれ、新たな価値を生み出す島づくり

(地域の経済循環)	・物品やサービスの地産地消の取組を進め、地域経済の循環と産業の競争力向上を図ります。
(既存産業の振興)	・多様な形態の農漁業への就労について検討し、新規就業者を積極的に受け入れる仕組みを作るとともに、新しい農と食の展開に向けて人材育成に取り組みます。 ・食のブランド化の取組を進めるとともに、地域の食材と文化を生かした「食の文化」を創造し、発信します。 ・農林水産業の6次産業化や食と農を生かした国際的な交流拠点づくりを進めることにより地域産業を振興します。 ・地場産業を再評価し、新しい時代に適合した展開を図ります。 ・地域に適合した新しい技術を積極的に導入し、地域産業の競争力を高めます。 ・おもてなしの心を持って、国内外の旅客の受入態勢や交流基盤を整え、観光客や国際会議の誘致を進めます。 ・都市住民との交流やグリーンツーリズムを促進します。 ・スローライフな田舎暮らし、淡路島らしい自然と共生する暮らしを提案し、定住・交流人口の増大をめざします。
(新産業の創造)	・地域内外の連携による創造的な取組を促進し、新産業の育成を行います。 ・環境配慮型企業や農業関連企業を積極的に育成、誘致します。

実践目標3：自然とのつき合い方を再考し、その恵みに支えられた島づくり

(人と自然)	・自然への畏敬の念や命の循環を学ぶ機会をつくります。 ・住民や企業による自然の保護・再生活動を推進します。 ・「環境立島淡路」島民会議により推進されている島民運動に積極的に参加します。 ・外来種の駆除、自生種による緑花活動、放置竹林や里山・里海の整備など生態系の多様性を保全する取組を進めます。 ・過去の教訓を生かし、ハードとソフトが一体となった防災・減災の地域づくりを促進します。
(エネルギー・資源)	・エネルギー自給と自治を目指して地域内生産を促進します。 ・エネルギー消費構造の改革を進め、積極的に低炭素化を推進します。 ・ごみの減量と資源循環を進めます。
(自然の恵みと生業)	・自然の恵み(生態系サービス)を賢く使う取組を進めます。 ・自然、歴史、生活、文化に育まれた淡路島らしい景観を、新たな技術を導入して守り育てます。 ・新たな地域適正技術を研究し、淡路島の自然素材や伝統技術を元に生業(なりわい)を生み出します。

実践目標4：経済、社会、環境が調和し、命をつなぐ島づくり

(学ぶ)	・経済、社会、環境の調和について、暮らしの中で意識し、学び、ともに考える機会を増やします。
(つくる)	・地域の自然や文化に適合し、環境に優しく、淡路島らしい暮らしを実現するための制度や仕組みを生み出します。 ・淡路島と同様のビジョンを持つ国内外の地域と、国際的なネットワークをつくります。
(発信する)	・ビジョンの取組をフォローアップし、実践過程や成果を国内外に発信します。

現行ビジョンの構成

新ビジョンの構成 (案)

【理念】

1. 命をつなく持続可能な島
2. 「経済」「社会」「環境」の調和がとれた新たな幸せ社会
3. 環境立島公園島淡路の理念の継承と発展

【目標】

環境立島あわじ ～人と自然の豊かな関係をぎざく公園島へ～

【実践目標1】

誰もが役割を持ち、地域の宝が生きる島づくり

(行動指針)
教育・文化
健康・福祉
まちづくり・地域づくり

【実践目標2】

個性と活力にあふれ、新たな価値を生み出す島づくり

(行動指針)
経済
産業

【実践目標3】

自然とのつき合い方を再考し、その恵みに支えられた島づくり

(行動指針)
自然
エネルギー・資源

【実践目標4】

経済、社会、環境が調和し、命をつなく島づくり

(行動指針)
学ぶ
つくる
発信

目指す社会像

『○○○○○○○○ ～○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○～』

目標

目標

目標

目標達成に向けた一人ひとりの役割・行動

目標達成に向けた一人ひとりの役割・行動

目標達成に向けた一人ひとりの役割・行動